表紙

妊産婦・乳幼児のための災害への備え

あなたと小さな命を守るために

先輩ママからのエール　産婦人科医師・医学はくし・公衆衛生学修士　吉田 穂波先生

１ 避難場所や避難経路 確認できていますか

２ いざという時の備え十分ですか

３ もしもの時の連絡方法 決まっていますか

４ 災害が起きたら

５ ココロとからだのケア

６ 家具の置きかた 工夫していますか

あなたと家族の連絡網

２ページ

あなたと小さな命をまもるために

　災害はいつ起きるかわかりません。災害への備えは、災害が起きたときのことをイメージし、どう行動するかを事前に考えることが大切です。また、災害が起こったときのために、具体的な対応や連絡方法について家族と話しておくとともに、日頃からご近所と交流しておくことも大事です。このリーフレットは、妊産婦のかたや子どもがいるかたが、災害時にとるべき行動の手引となるように作成しました。自分と子どもを守るために、ご家庭や地域での災害対応に活用しましょう。

６児の先輩ママからのエール

吉田 穂波 先生

産婦人科医師・医学はくし・公衆衛生学修士

　もし、妊娠中の今、災害が起きたら、と考えただけで不安になりますよね。妊娠すると、また子どもがいると、誰でも普段と同じようには動けませんし、自分が思っている以上に気持ちも体力も消耗しがちです。自分たちと赤ちゃんを守るために、今出来ることは今から準備しておきましょう。東にほん大震災で私たちは、長く続く被災生活で環境変化の影響を受けやすい高齢者、障がい者、外国人や妊産婦、乳幼児に対して適切な配慮をする必要があること、健康を保ち、周囲の人々と支え合いながら過ごすことが地域の復興を後押しすることなどを学びました。自分や家族が災害に遭遇するかもしれないと考えると、かけがえのない日々の暮らし、当たり前のようにそこにある存在に対して感謝の気持ちが湧いてきます。そして、災害時ほど、お互いの思いやりが引き出されることはありません。防災行動は災害時だけでなく、今の生活にも役立つのです。皆さんが災害から目を背けたり怖がって考えないようにしたりするのではなく、防災行動を通じて普段からのつながりをはぐくみ、何があっても大切な人を守れるような備えをし、安心して毎日を過ごしていただけるといいなと願っています。

３ページ

１ 避難場所や避難経路 確認できていますか

　在宅避難が基本です。自宅が安全ならひなんじょへ行く必要はありません。日頃から食料や水など必要な物を備え、在宅避難ができる準備を整えておくことが大切です。

避難の流れ

自宅で災害が発生し、家屋の倒壊や火災など自宅が危険になったとき

公園・学校などのいっとき集合しょに避難します。

危険回避のために一時的に集合して様子を見る場所です。区内に約490か所あります。

火災延焼などでいっとき集合しょに危険が迫ったとき

大規模公園など広域避難場所に避難します。

火災延焼などにより自宅・いっとき集合しょが危険な状態になった場合に避難する場所です。

区内がい24か所にあります。

火災延焼の危険は去ったが、自宅が安全でないとき

区立小中学校などの指定避難じょに避難します。

自宅での居住継続が困難な時・二次災害を受ける可能性のある場合に一時的に生活するための施設です。

妊婦・１歳未満の乳児とその家族が指定避難じょ等での生活が困難となったとき

被災から４日目以降に開設される福祉避難じょ（母子）へ避難します。

指定避難じょでの生活が困難となった妊婦・乳児と家族が生活するための施設です。

区内協定締結施設の大学、高校等で、発災から４日目以降に順次開設されます。

状況の改善により避難じょや自宅へ戻ります。

いずれの避難先からも危険が去り、自宅が安全なときは自宅に戻ります。

※震災時の避難じょ等を表記しています。

　水害・土砂関係の避難じょ等は、洪水・土砂災害の各ハザードマップをご確認ください。

災害に遭った時のポイント

自宅で災害にあったら

● ガラスや家具から離れ、テーブルの下に隠れるなど、頭部やからだを守りましょう。

● 周囲の状況や家族の安全確認をしましょう。

● 自宅や近隣の被害状況を確認し、避難が必要か判断しましょう。

避難が必要になったら

● 避難の際は、火災を防ぐため、ガスの元栓を閉め、分電盤の電気ブレーカーは落としましょう。

● 周囲の被害状況から避難先を判断しましょう。

体調に異変を感じたら

● 自分のからだや赤ちゃんに異変を感じた時には、できるだけ病院に行きましょう。

● 日頃の様子や体調の変化がわかる、かかりつけ医に相談しましょう。

● 受け入れ可能な病院は避難じょの情報等で確認しましょう。

災害の前に

● 地図上で避難場所までの安全な経路を確認しておきましょう。

● 普段のお散歩で避難場所までの道を子どもと一緒に歩いてみましょう。

● 地域の防災訓練に積極的に参加しましょう。

４ページ、５ページ

２ いざという時の「備え」十分ですか

日常に＋αで十分な備え

　災害はいつ起こるかわかりません。お出かけ中に被災したら…。いろいろ揃えるのは大変。非常食をずっと置いておくのも…。

　いざというときのために不安はたくさんあります。ですが、日常のちょっとした工夫が十分な備えになります。

　日頃使っているお出かけ用バッグに非常用物品や使い慣れたものを入れておく、食料や飲料水もローリングストックをしておくと無理なく備え始められます。

マタニティマーク

妊娠中の外出じは身につけておきましょう。いざというときにおなかの赤ちゃんを守るための、大切なサインになります。避難先では妊娠中であることを周囲に伝えましょう。

日頃のおでかけに

乳幼児の必需ひんも外出じに持っていれば、いざというときに活躍してくれます。妊婦さんもお子さんのために準備してみましょう。

マザーズバック（子どもとのお出かけ用バッグ）

母子健康手帳。重要なページはコピーやデジタル化しておくと安心。

子どもの医療証・保険証。コピーや番号を控えておきましょう。

おくすり手帳

紙おむつ

おしりふき。ウェットティッシュの代わりにもなります。

おむつ用ごみ袋

着替え

タオル。清潔をたもてるよう乾きやすいものや手ぬぐいも。

おくるみ

抱っこひも

授乳用品・ミルク用品。授乳ケープや哺乳瓶など普段から使っているものを。

離乳食。調理の必要がなく、そのまま食べられるものを。

離乳食用スプーン

おもちゃ。お気に入りのものがあると子どもも安心できます。

ポケットティッシュ

マザーズバッグにプラス

モバイルバッテリーなど日頃から使えるものは持ち歩いておきましょう。

非常持出ひん（自宅から避難しなければいけないときに）

食品。妊娠中はつわりが酷いときでも食べられるものを。

飲料水

使い捨て哺乳容器。洗浄・消毒が十分でない時には清潔な紙コップでも。

ウェットティッシュ。水や石鹸がないときに手やからだなどをふいて、清潔に。

マスク・手指消毒液・体温計。感染症予防のため、衛生用品は各自で持参しましょう。

生理用品

ビニール袋。ごみ用など大小揃えておくと便利です。

携帯トイレ。震災直後は水洗トイレの使用を控えましょう。

着替え。靴下・下着・ダウンや長袖ながズボンでからだの保温を。

軍手・手袋

カイロ・保冷剤

携帯電話・スマートフォン

モバイルバッテリー。充電は常にフルにし、日頃から持ち歩きましょう。

懐中電灯・LED ライト。ヘッドライトなら両手をあけられるので、便利です。

乾電池

ホイッスル

家族の写真。家族を探すときにも有効です。

常備ヤク。災害時は手に入れづらくなります。

お金。公衆電話や釣銭不足を想定して小銭や1000円札に。

一週間過ごせる備えを

３日分以上、できれば１週間分備蓄しましょう。日頃使う物品を多めに購入し、消費、買い足しをすると簡単に備蓄ができます。

非常備蓄ひん（在宅避難の備えに）

食品

バスタオル

飲料水（１人１日３リットル）

カイロ・保冷剤

ミルク用品

携帯電話・スマホ用充電器

離乳食

乾電池

離乳食用スプーン

懐中電灯・LED ランタン

ウェットティッシュ

ラジオ

ティッシュペーパー

カセットコンロ・ガス

トイレットペーパー

鍋・やかん

マスク

ラップ・アルミホイル

生理用品

ガムテープ・養生テープ

ビニール袋

新聞紙

歯ブラシ・マウスウォッシュ

バケツ

手指消毒剤

ビニールシート

災害用トイレ

救急セット

着替え

常備ヤク

寝袋・毛布

お金

６ページ

３ もしもの時の連絡方法 決まっていますか

災害じは電話やメールがつながらないことを前提に連絡手段を決めておきましょう。

いちなないち　災害用伝言ダイヤル

大災害発生じ、個人の安否確認手段としてNTT東にほんが運用するサービス

利用方法：いちなないちをダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生をおこなってください。

災害用伝言ばん：ウェブいちなないち

インターネットを利用した伝言ばん。被災地域の居住者が、電話番号などをもとに伝言情報（テキスト・音声・画像）の登録などが可能。

利用方法：https://www.web171.jp へアクセスし、画面に従って伝言情報の登録・閲覧をおこなってください。

世田谷区の関係課連絡先

災害対策の全般に関すること

危機管理部災害対策課。　電話番号、5,4,3,2。2,2,6,2。FAX,5,4,3,2。3,0,1,4

耐震診断に関すること

防災街づくり担当部 防災街づくり課耐震促進担当。　電話番号、6,4,3,2。7,1,7,7。FAX,6,4,3,2。7,9,8,7

地域の災害対策全般に関すること

各総合支所 地域振興課 地域振興防災

世田谷、電話番号、5,4,3,2。2,8,3,1。FAX、 5,4,3,2。3,0,3,2

北　沢、電話番号、5,4,7,8。8,0,2,8。FAX、 5,4,7,8。8,0,0,4

玉　川、電話番号、3,7,0,2。1,6,0,3。FAX、 3,7,0,2。0,9,4,2

　砧　、電話番号、3,4,8,2。2,1,6,9。FAX、 3,4,8,2。1,6,5,5

烏　山、電話番号、3,3,2,6。9,2,4,9。FAX、 3,3,2,6。1,0,5,0

妊娠・育児・健康に関すること

各総合支所、保健福祉センター 健康づくり課

世田谷、電話番号、 5,4,3,2。2,8,9,6。FAX、 5,4,3,2。3,0,7,4

北　沢、電話番号、 6,8,0,4。9,6,6,7。FAX、 6,8,0,4。9,0,4,4

玉　川、電話番号、 3,7,0,2。1,9,8,2。FAX、 3,7,0,5。9,2,0,3

　砧　、電話番号、 3,4,8,3。3,1,6,6。FAX、 3,4,8,3。3,1,6,7

烏　山、電話番号、 3,3,0,8。8,2,4,6。FAX、 3,3,0,8。3,0,3,6

世田谷区防災マップアプリ、スマートフォン・タブレットでご利用いただけます

GooglePlay

利用条件　Android4.0以上の端末（4.4以上推奨）

AppStore

利用条件　iOS7以上の端末

●事前に地図をダウンロードするため、通信が利用できない状況でも地図の閲覧が可能です。

　GPS 機能がある端末では最寄の避難じょや広域避難場所を検索することができます。

●いざというとき、気になったときにすぐ震災時区民行動マニュアルを確認できます。

● 防災メモ機能、予め避難じょをメモしておくことができ、その避難じょ近辺の地図を簡単によびだせます。利用者本人や家族について、血液型や常備やく、アレルギーなどのメモも可能です。

世田谷区ホームページ

トップページにて災害情報を配信しています。https://www.city.setagaya.lg.jp

災害・防犯情報メール配信サービス

最新の災害・防犯情報等が即時に送信されます。備えとしてお役立てください。

世田谷区公式Twitter アカウント

区の防犯・防災・危機管理に関する情報を発信しています。

setagaya\_kiki をフォローしておきましょう。

７ページ

４ 災害が起きたら

①、妊産婦の心得

●安全と安心を得られる避難先を確保しましょう。

●避難先では病気ではないからと遠慮せず、妊娠していることを周囲の方々に伝えることも大切です。

●頭痛やおなかの張り、出血の有無。赤ちゃんの動きの回数など、自分の体の状態に目を向けましょう。

●妊娠中は冷えるとおなかが張ったりする場合があります。できるだけ暖かくしましょう。

●水分を我慢したり、長時間無理な姿勢でいると、けつ流が悪くなります。

　こまめな水分摂取と軽いストレッチを心がけましょう。

●体調不良の際は我慢せず病院へ連絡しましょう。

● 出産の予定が早まる可能性もあります。破水や出血、陣痛かなと思ったらそのまま様子を見ず、周囲の人にサポートを求め、できるだけ早めに受診しましょう。

産後は以下の点にも注意しましょう

●出産直後は、特に安静が必要です。

●膀胱炎や感染症になるリスクがあります。トイレは我慢しないようにしましょう。

●産後は特に、エコノミー症候群などのリスクにも注意しましょう。

●避難先では、授乳や赤ちゃんをあやしたりする部屋の確保について相談してみましょう。

②、母乳、ミルクについて

● ショックで一時的に母乳が出にくいと感じても、飲ませ続けると出てくるようになります。

● カセットコンロを準備するとガスがとまってもミルク用のお湯が準備できます。

● 哺乳瓶が無いときや洗浄・消毒が十分でない時には、清潔な紙コップなどを使いましょう。

● 硬水は消化不良を起こしやすいので、ミルクを作る際には軟水を用意しましょう。

● ミルクの飲み残しは菌が繁殖しやすいので必ず捨てましょう。

助産師

助産師は妊娠・出産・産後・育児のエキスパートです。

母乳相談・子育ての不安などお気軽にご相談ください。

区と公益社団法人東京都助産師会は、災害時の協力協定を締結しています。

公益社団法人東京都助産師会世田谷目黒地区分会ホームページはhttps://www.setagaya-josanshi.net です。

８ページ

５、ココロとからだのケア

　災害じは、不眠や食欲低下などのからだの変化だけではなく、無気力になったり、感情の起伏が激しくなったりするなど、ココロも影響を受けることがあります。しかし、このようなココロの変化は、誰にでも起こりうる正常な反応で、ほとんどの変化は、時間とともに回復していきます。周囲の手助けを上手に受けることも大切です。

①、妊産婦のケア

●話せる人に気持ちを聞いてもらいましょう。我慢する必要はありません。

●家族には話しにくいことがあるかもしれません。専門家に相談をしてみましょう。

●からだを動かすこと、眠ること、食べることをだいじにしましょう。

　生活のリズムを崩さないことも大切です。

②、乳幼児のケア

かっこ１、ココロのケア

● 子どもは環境の変化に敏感です。だきしめたり、話を聞いたり、そばにいて安心させてあげましょう。

● 子どもの心身を保つには遊ぶことも大切です。遊べる場所の確保に努めましょう。

かっこ２、からだのケア

●食欲低下や食べすぎ、おうと、下痢、便秘などの症状が出ることもあります。

　生活リズムをできるだけ崩さないようにしましょう。

●食欲が出ないこともあるので、備蓄ひんに食べ慣れたものを準備しておくとよいでしょう。

●お子さんにアレルギーなどがある方は、周りに知らせましょう。

●ウェットティッシュなどでからだを清潔に保つことを心がけましょう。

③、その他

●トイレが使えない場合、ごみ袋の中に消臭砂や新聞紙などを入れ、排泄しましょう。

　ナプキンやおむつも同様にごみ袋に入れ、袋の口をしっかり結びましょう。

●消毒剤などで生活環境を清潔に保ちましょう。

●安全のため、離れたトイレや暗がりには必ず複数にんで行きましょう。

●お互い声を掛け合って、安全を確認しましょう。

参照、　助産師が行う災害時支援マニュアル、　日本助産師会出版発行

　　　　妊産婦・乳幼児を守る災害対策ガイドライン、　東京都福祉保健局発行

９ページ

６、家具の置きかた 工夫していますか

　自宅を安全な場所にすることがなによりの災害対策になります。日ごろからの安全なスペースの確保は、災害時だけではなく、子どもの事故防止にもつながりますので、家具の転倒・移動防止の措置を行いましょう。家庭で地震発生を想定した訓練をしたり、地震がきたら子どもに身を守るように約束をしましょう。

家具の置きかたのポイント

１、移動防止器具は２方向以上に取り付けましょう。

２、L 字金具で家具を固定するとともに、扉の開放防止器具を設置して、飛び出しを防止しましょう。

３、二段がさねの棚は金具などで固定しましょう。

４、本棚から本などが飛び出さないよう滑り止め対策をしましょう。

５、ポール式を使用するときはストッパーを併用しましょう。

６、ガラスに飛散防止フィルムを貼りましょう。

７、外に出る通路を塞ぐものがあれば、転倒・移動防止の措置を行いましょう。

８、テレビと台は重いため、壁などに固定しましょう。

９、寝る場所の近くになるべく家具を置かないようにしましょう。また、ホイッスルまたは笛・懐中電灯・履物などを用意しましょう。

区では旧耐震基準で建てられた建築物の耐震診断や耐震改修工事の助成、家具転倒防止器具取付支援（65歳以上の方や障害のある方等の条件があります）など、様々な耐震支援制度を実施しています。詳しくは防災街づくり課までお問合せください。

１０ページ

あなたと家族の連絡網

緊急時に備え、連絡先などをまとめておきましょう

１、自分の住所

２、自分の電話番号

３、家族の緊急時の連絡先（勤務先・学校・携帯電話）

氏名・名称

住　　　所

電話・連絡先

メ　　　モ

４、親戚・知人の連絡先

氏名

住　　　所

電話・連絡先

メ　　　モ

５、避難場所

いっとき集合しょ

広域避難場所

家族の集合場所

指定避難じょ

６、家族の救急データ

氏名

生年月日

血液型

服用中の薬・持病・アレルギーなど

７、かかりつけ医

病院めい

住　　　所

電話・連絡先

メ　　　モ

発行・編集：世田谷区、子ども若者部、コドモわカモのしえんカ

協力：公益社団法人東京都助産師会世田谷目黒地区分会

令和４年４月発行